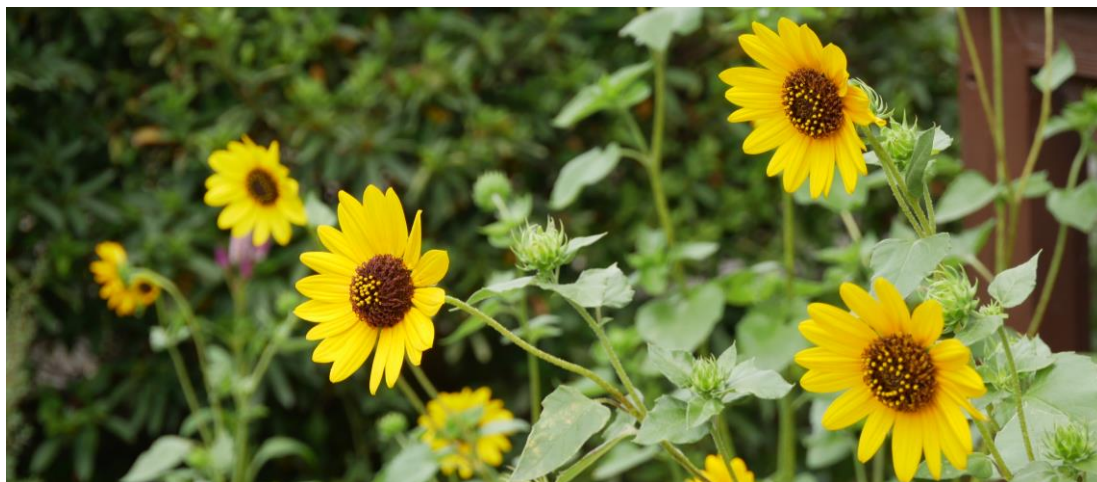


Shake Hands 常滑国際交流協会 第 131 号 2022 年 7 月 18 日発行
〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内 電話・FAX：0569-34-4797
メール：tia@japan-net.ne.jp URL：<https://www.japan-net.ne.jp/~tia/>



2022 年度 第 2 期 英会話講習のお知らせ

常滑国際交流協会では、私達に一番身近な外国語である英語を使って国際交流を行うことを目指して「英会話講習」を実施しています。下記により 2022 年度第 2 期の受講者を募集します。

記

日程：毎回水曜日、(全 12 回)

9 月 21 日、 9 月 28 日、 10 月 5 日、 10 月 12 日、 10 月 19 日、 10 月 26 日、
11 月 2 日、 11 月 9 日、 11 月 16 日、 11 月 30 日、 12 月 7 日、 12 月 14 日
(9 月 21 日から 10 月 12 日までの 4 回は会場が常滑商工会議所の東館 2 階に変わります。)

時 間：午前 10 時～12 時

場 所：とこなめ陶の森資料館講座室

講 師：(H. E. ART 英会話) Jason Ford 氏 他

募集人員：24 名 (定員になり次第締め切ります。)

参加費：12,000 円 (常滑国際交流協会の会員は 10,000 円)

テキスト：新規に第 2 期から受講の場合は別にテキスト代が必要です。

* 常滑国際交流協会の個人会員の年会費は 2,000 円です。

* まだご入会いただいていない方はぜひこの機会にご入会下さいますようお願い申し上げます。

〒479-0837 常滑市新開町 5-58 常滑商工会議所内 **常滑国際交流協会**

(事務局の開設は火・水・木曜日の午後 1 時～4 時です。)

電話・FAX 0569-34-4797 メールアドレス tia@japan-net.ne.jp

申込みは上記メールアドレスへ氏名・住所・電話番号・メールアドレスをご連絡下さい。



こんにちは

2022年7月 常滑国際交流協会

会長 山中 潤一

初めまして、常滑国際交流協会 2022 年度の総会で会長にご指名いただきました山中潤一です。常滑における国際交流活動にお役に立てるよう微力ながら頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、昭和の終わりに常滑に転職で移住してきました。常滑は伊勢湾に面した知多半島の西海岸に位置し、海苔やあさりをはじめとした海の幸に恵まれ、緩やかな丘陵では畜産や農作が愛知用水に支えられてしっかりと営まれ、千年近くの歴史を持つ焼き物は食材の貯蔵や日常の食器、趣味の盆栽鉢、そして衛生陶器の生産で世界が必要とする産業としてしっかり根付いています。素晴らしい土地に移住できたと感動しました。今でも、この感動は続いています。

そんな常滑で、移住早々に目についたのが「焼き物ホームステイのボランティア募集」のチラシでした。大急ぎで応募して、その夏は香港から、次の夏はアメリカから、その次はイギリスからと次々参加者と約一ヶ月半の魅力的な夏を経験することができました。このボランティア活動は累計 383 名の海外陶芸作家を各家庭にお招きし、穴窯・登り窯で作陶をお手伝いする焼き物ホームステイ IWCAT (International Workshop of Ceramic Art in Tokoname) として 27 年続きました。また、市内小学校と海外小学校の交換留学 TSIE (Tokoname Students International Exchange) を小学生のご父兄の皆さんのご努力下で 25 年間も続けておられます。このほかにも多くの地域の人々の手で数々の国際交流が続けられてきました。

私は、2020 年 6 月末に 45 年間の企業生活を終え、昔楽しませていただいた活動に恩返しがしたくて、国際交流協会の活動に参加させていただきました。

ところが、この二年間は、covid19 によるパンデミックのおかげですべての国際交流活動が休止状態になってしまっしまい、残念な気持ちでございました。

幸いにも、この 6 月上旬より、海外からの入国制限が緩和され、海外の人たちとの交流が再開することとなりました。さらに、今年は「とこなめ散歩道」をサテライト会場として国際芸術祭「あいち 2022」が開催され、いよいよお手伝いする時期到来と感じています。

今、入国緩和を受けて、海外からアーティストの皆様が展示会の準備のために中部国際空港に降り立ち、常滑の街に滞在されています。

私が営む民泊にも、アルゼンチンとオランダのアーティストが滞在され、スペイン語と英語を日常生活の中でごく普通に使うようになりました。あのワクワクする国際交流が始まったのです。スペイン語はほとんど話せませんが、翻訳アプリのおかげで、かなり複雑な内容でも十分コミュニケーションがとれています。

このようにコミュニケーションツールの発達で、言葉の壁が低くなってきました。これらのツールをうまく活動に取り込み、伝統産業や各種の文化活動、サークル活動の国際交流がさらに円滑に進むよう、新たな試みにチャレンジしていきます。地場の持つ「人と伝統の無形文化資産」を世界に直結する国際都市常滑の地の利を生かして発信し、国際交流の一助となるよう奮闘努力することが私の使命であると、今、力が入っています(笑)。ご期待ください。

2022年度 総会報告

前会長 鯉江正廣

常滑国際交流協会の総会は、昨年、一昨年に続いて本年も実際の会議を開くことが出来ず郵送投票形式で実施しました。

コロナ禍のこの2年余り、当協会では実際の交流活動や市内案内ガイドなどがほぼ出来ない状況の中で、今後の当協会のあり方、活動目的や形などを模索して参りました。

「国際交流に資する人材の育成」という当協会設立当初からの目標を再確認し、変化を恐れず、より軽やかな組織体に改革していくための会則改定を提案致しました。

主な改訂点は「理事会に代わり運営委員会の強化と拡大」です。

郵送投票は個人会員、賛助会員計125通を発送し、6月20日までの返信81通を頂きました。投票の内訳は「第1～4号議案に意義無し78通、いずれにも無記入3通」で議案は全て可決しました。

今後は山中新会長のもと、さらに活発な協会活動を進めるべく、今後ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「常滑の魅力発見講座 2022」 多言語通訳予定

常滑国際交流協会では、国内外の方々とともに常滑の魅力を再発見し、中部国際空港に直結したまちの特性を活かして世界に発信する「常滑の魅力発見講座」を開催いたします。「常滑の魅力発見講座」では千年の歴史をもつ常滑焼が創る日本の伝統文化の中から「常滑焼と花・茶・地酒」の魅力を多言語対応で体験していただきます。

なお、ふりかえり講座として10/10「常滑の魅力散策」を予定しています。

◆講座内容（会場：常滑陶磁器会館3階会議室 定員：各講座10名）

月/日	講 座 名	開始時間～終了時間 (受付：開始時間15分前～)	講 師
10/8 (土)	①「花遊び」体験講座 ～野の花・庭の花を楽しむ～	9時30分～11時30分	斎田月紅氏
	②急須で淹れる日本茶の楽しさ	13時～14時30分	中根めぐみ氏
	③常滑焼の器で利き酒体験	15時～16時30分	澤田研一氏
10/9 (日)	①「花遊び」体験講座 ～野の花・庭の花を楽しむ～	9時30分～11時30分	斎田月紅氏
	②急須で淹れる日本茶の楽しさ	13時～14時30分	中根めぐみ氏
	③常滑焼の器で利き酒体験	15時～16時30分	澤田研一氏

◆対象者：国内外の外国籍の方、国内外の外国籍の方へ常滑の魅力を発信したい方等

◆参加費：①、②、③各講座1,000円（参加費は当日集金します。）

◆申込方法・締切（9月30日（金曜日）まで）申込多数の場合、先着順

※参加申込は <http://www.japan-ent.ne.jp/~tia/>の「お知らせ」の「常滑の魅力発見講座」参加申込書にある必要事項をメールまたはFAXで送信してください。応募者多数の場合は先着順といたします。

◆申込・問い合わせ先：常滑国際交流協会

住所：〒479-0837 愛知県常滑市新開町5-58

TEL/FAX：0569-34-4797 メール:tia@japan-net.ne.jp

今年も海水浴のシーズンがやってきました。近くは内海の海岸、少し足を延ばして南紀白浜。白い砂浜が続くのが海水浴場のイメージでしょうか。メキシコでは太平洋岸のアカプルコが有名です。最近では治安が・・・(メインストリート周辺のみは大丈夫だそうです)。その代わりに有名になったのがカリブ海に面したカンクンです。アメリカからはフロリダ半島を越え、カリブ海を横切ればすぐの距離にあり、アメリカ系の航空会社のドル箱路線となっています。現地では、USドルがそのまま使えたり、英語がどこでも通じるなど、アメリカ合衆国カンクン州になっています。その海岸は、絵に描いたような白砂です。カリブ海沿岸のサンゴが、長い年月の間に細かな砂となり海岸線を作ったようです。ところが残念なことに、この地は外洋に面しているため、日本人が考えている海水浴場としては少々波が荒いときが多く、遊泳禁止になる時が多々あります。そのためほとんどのホテルはプールを持っていて、海を見ながらプールで泳ぐ観光客が多いようです。海で泳ぐことが大好きな観光客は、コスメルやイスラムヘーレスといった波の影響を直接受けない島へ渡ることになります。スキューバダイビングが趣味の方は、たいてい島の方へ渡り滞在期間を一杯楽しみます。そのために、海底博物館(水深7~8mの所に石像が並べてあったり、車の上に石像がのっている)が設営してあって、観光スポットとして初心者にも好まれています。

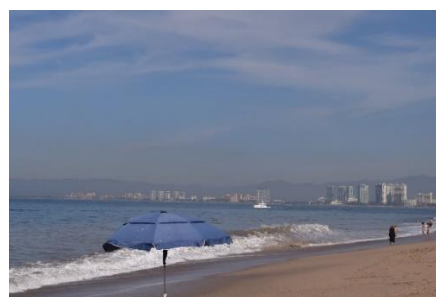
さて、最初にアカプルコの話を出しましたが、その近くにプエルトバジャルダという観光地があります。この砂の質は、カンクンと違いそれほど白くありません。何となく日本の海水浴場の砂に似ています。メキシコの太平洋岸ではカリブ海よりずっと波が荒く、亜熱帯にもかかわらずサンゴの生育がうまくいかなかったようです。その点は日本の海岸の砂と似ているような気がします。両海岸の砂の写真を比較に載せておきますが、天候や季節の関係もありますので、参考までに。

コロナ禍もそろそろ下火となり？庶民の海外旅行も復活できそうですが、航空運賃はまだまだ高止まり傾向のようです。さて雑学をひとつ。最近の飛行機は、昔のようにエンジン4つを持つ大型機が主流ではなく、エンジン2つの軽量大型機？が主流となり燃費も向上されてきました。コロナ禍に入る前、日本の航空会社のノンストップ最長飛行距離の路線は、どこだったでしょうか。

その路線は成田・・・メキシコシティ間を飛んでいたANAです。ANAとエアロメヒコの両航空会社が結んでいて、行きと帰りで偏西風のために所要時間が異なるのですが、約13時間程度のフライトでした。ただ、メキシコシティの空港は標高2000mの高地に位置するため空気が薄く、専用のエンジンを必要とするのみならず正規の定員より減らして運航されていたようです。でも、ダラスやヒューストン経由の乗り継ぎでメキシコまで行くことを思うと、直行便であり日系の航空会社の飛行機を好む方が多く、けっこう座席が埋まっていたようです。ちなみに我が家の家族が来たときは、より安価なダラス経由のアメリカ便利用でしたが。



イスラムヘーレス (カリブ海)



プエルトバジャルダ (太平洋岸)



石像群 (イスラムヘーレス)



車と石像 (イスラムヘーレス)

(筆者は2016年4月~2018年3月 Aguascalientes, Mexico に滞在)